

1. とうもろこしのシカゴ定期は、5月下旬には390セント／ブッシェル前後で推移していたが、米国産地での作付け進度が大幅に遅れたことから6月には450セント／ブッシェル台まで急騰した。その後、受粉に適した天候が続いたことや、8月12日発表の米国農務省需給見通しで、単収が市場予想を上回ったことなどから、360セント／ブッシェル台まで値下がりしたが、9月30日に米国農務省が発表した全米在庫報告で、予想を下回る在庫状況が報告されたことや、米中貿易協議の進展期待の高まり、米国産地の気温低下による作柄悪化懸念などから上昇し、現在は390セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、5月下旬には330ドル／トン台で推移していたが、米国産大豆の作付けが降雨により遅れたことから6月には350ドル／トン台まで値上がりした。その後、生育に適した天候となったことから320ドル／トン台まで値下がりしたが、9月30日に米国農務省が発表した全米在庫報告で、大豆の予想を下回る在庫状況が報告されたことや、米中貿易協議の進展期待の高まり、米国産地の気温低下による大豆の作柄悪化懸念などから上昇し、現在は340ドル／トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、5月には45ドル／トン前後で推移していた。その後、中国向けの南米産大豆の輸送需要に加え、とうもろこしの輸出も本格化したこと、また中国の粗鋼生産の増加に伴い鉄鉱石の輸送需要が増加したことから55ドル／トンを超える水準で推移していたが、鉄鉱石の輸送需要が一段落したことなどから、現在は50ドル台となっている。環境規制強化への対応に伴う燃料コスト増などが10月以降見込まれており、海上運賃の上昇要因となっている。
4. 外国為替は、6月には108円前後で推移していたが、8月に入りトランプ大統領が中国に対し追加関税を課すと表明したことにより円高が進み106円台で推移した。その後、米中貿易協議の進展期待の高まりから、現在は108円台となっている。

